

「今年の1年生はとても大変だ」と新年度四苦八苦することはありませんか。どの学校でも保育園・小学校連絡会等で来入児の受け入れ準備を始めていると思います。これは小学校のSRECが、早い時期から保育園と連携して受け入れ準備を進めた事例です。

6月に開催された保育園・小学校連絡会で、巡回教育相談の対象となる来入児が数名いることを聞いた小学校SRECのワダ先生。受け入れ準備を進めるために、入学前のできるだけ早い時期から子どもたちの様子を知りたいと思いました。

校長先生と相談し、夏休み前に校長先生から各保育園の園長先生あてに、ワダ先生の訪問について依頼をしていただきました。夏休み中に訪問しました。



●「お昼寝の時間」にタキ保育士さんとゆっくりお話をする時間がとれました。

タキ先生：「ミカさんは事前に話をしたり見せてあげたりすると、落ち着いて取り組めることが多いです」

ワダ先生：「入学前に学校へ見学に来たり、入学式の会場を見たりしておくともよいかもかもしれませんね。運動会の来入児種目も配慮が必要かもしれません」

タキ先生：「2番目の組にしてもらえると、様子が分かって落ち着いて参加できると思います」

ワダ先生：「事前にお母さんとお話できると他の配慮もいろいろできますね」

タキ先生：「お母さんにお話ししてみます」

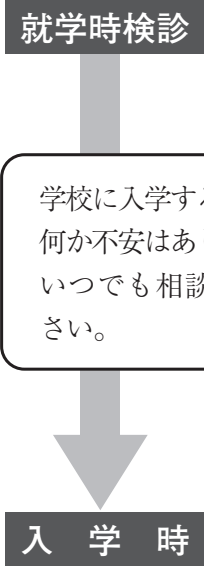
ワダ先生：「ミカさんの他にコウさんも今日はちょっとトラブルが目立ちましたね」

タキ先生：「友だちにすぐ手が出てしまうし、力の加減ができなくて友だちを泣かせることが多いんです」

ワダ先生：「力やスピードをコントロールすることを遊びに取り入れるといいかもしれませんね。ドミノや空き缶積み等もいいですね。やり方を教えてあげて、少しでも上手くできたらうんと褒めてみたらどうですか？」

タキ先生：「ぜひ今度やってみますね」

●タキ先生はその他にも気にかけているお子さんについていろいろお話をしてくれました。



タキ先生の勧めもあって、ミカさんやコウタさんのお母さんが教育相談に小学校へやってきました。ワダ先生からのお話で、安心したようでした。

学校に入学することで、何か不安はありますか？
いつでも相談してください。



事前に学校見学を希望するようでしたら、いつでも日程をとりますよ。

こだわりや友だち関係で心配でしたら、保護者のための学習会もあります。よかったら参加しませんか？

- 学級担任のミナミ先生に、入学前のミカさんやコウタさんの様子、有効な対応の仕方を知らせておくことができたので、ミナミ先生もそれを参考に準備をし、落ち着いて対応することができました。
- コウタさんは、入学当初から友だちとのトラブルが目立ちましたが、入学前から丁寧に対応することによって、保護者と学校との信頼関係ができていたので、すぐに懇談の時間を設け、どうしていくかについて一緒に考えることができました。
- 新しい環境に慣れにくいミカさんも、入学前に学校見学を繰り返し行っていたので、入学後もスムーズに学校生活に入ることができました。

**幼稚園・保育園で
対応に困っている時には！**

保育園や家庭で対応に困っているケースに出会うことがあります。そんな時には**自律教育地域化主任推進員**に相談したことも有効でした。（本誌p77参照）

実際に保育園に出向き子どもの様子を見たり、保護者や保育士と話をしたりしながら、具体的な対応の仕方を教えてもらえるので、保護者も心強いようです。

また、書類等による申し込みもなく、電話一本で継続的にかかわってもらえることも可能です。

事例から学ぶ

時間の余裕がある長期休みに、1日を通して生活の様子を見ることにより、より多くの子どもの情報が得られ、確かな理解につながります。入学時からできるだけスムーズに学校生活に入るとは、本人にとっても保護者にとっても学級担任にとっても大事なことです。事前準備を十分行うことで信頼関係も生まれます。

また、子どもを目の前にして保育士さんと話ができると、より具体的に子どもの話ができます。できそうでなかなかできていない支援です。

事例 25

小学校と中学校をつなぐ縦の連携(小学校)

～SREC同士の連携で中学校にスムーズにつなげる～

「この子は中学校に入学してうまくやっっていけるかなあ」と心配になることがあるかと思います。小学校のSRECと中学校のSRECの連携がポイントです。中学校生活にできるだけスムーズに入っていくことができるように、本人、保護者、学級担任の願いを大事に汲み取りながら、入学前の早い時期から小中学校で連携して準備に取り組んだ事例です。

マサオさんは、通常の学級に在籍するADHDのあるお子さんです。クラス替え後の4年生のときは、新しい学級や担任に慣れるのに時間がかかりました。5年生のときは、臨海学習で友だちとうまくいかず、班を飛び出してしまうこともありました。今でも、新しい集団に入るのが苦手です。そのようなマサオさんを、担任のサワ先生はよく理解し、できるだけ生活しやすくなるよう工夫してきました。しかし、中学校へ進学してからどうなるのか、心配でたまりませんでした。

5年秋

サワ先生の心配

中学校で新しい友だちや毎時間変わる先生方に慣れるのに時間がかかるのではないかなあ？

テストが受けられないと高校受験ができないと思うけれど、大丈夫かな？

小学校担任サワ先生



集団行動などで大声を出されたら、固まってしまうかもしれないなあ。

中学校に進学するまでにどんな力を付けておく必要があるんだろう？

相談



小学校SRECオガワ先生

大変心配していたサワ先生は、SRECのオガワ先生に相談してみることにしました。オガワ先生から、中学校SRECのタナベ先生やスクールカウンセラーのミキ先生にお願いして、授業を参観していただき、アドバイスを受けてみてはどうかとの提案があり、お願いしました。

◆タナベ先生・ミキ先生のアドバイス◆

- 学力的には大丈夫そうだけど、テストが受けられないと中学校では苦戦しますね。まだ1年以上あるから、テストが受けられるように学習の方法を考えましょう。
- 集団行動が上手とれるような支援を工夫し、自信がもてるようにしていきましょう。

お母さんにもタナベ先生からのアドバイスを伝え、テストや集団行動を上手く乗り越えられるように、お母さんにもサポートをしていただくことをお願いしました。

6年秋

6年の秋になり、中学校への入学が近づいてきました。保護者、担任、少人数学習担当者、小学校SREC、中学校SRECで、中学校入学に向けてどのような準備をしたらよいか話し合いをもちました。

- ・担任、少人数学習担当者、小学校SRECから、現在のマサオさんの学校生活での様子について、プリントなどを用意して要点的に説明をしました。
- ・お父さんやお母さんに、中学校の自律教育体制について、中学校SRECから説明をしていただき理解をしていただきました。

以下のことに取り組むことを決めました。

- 中学校の先生方にあらかじめマサオさんの特徴についてよく知っておいていただくようにするため、連絡を密にしましょう。
- 中学校生活について見通しがもてるように、そして慣れない中学校で頼れる人をつくっておくために、小学校の卒業式前に中学校のタナベ先生に個別に中学校の説明をしてもらう機会を設けましょう。
- 叱られたり大声を出されたりすることが苦手なマサオさんに、どんな場面で先生方が大きな声を出すか予告しておきましょう。

中学校の新入生受け入れ係、生徒指導係、SREC、教頭先生に小学校へ参観に来ていただきました。また、支援の必要な子どもについて、保護者の了承を得て、中学校に「個別の指導計画」を引き継ぎました。

2月には6学年全体で、中学校の授業参観や中学校の先生による学校生活についての説明会を開いてもらったのも、多くの子どもたちに好評でした。

中学校で工夫した支援内容

中学校でも小学校からの情報を生かし、受け入れを工夫しました。

- SRECを1学年に配属し、新しい学年の先生方に情報をしっかり伝えました。
- 大声での指導は苦手ということから、学年の先生方は集団行動などのときに、突然大声を出すことがないように配慮しました。
- 入学後、トラブルなどがあったときには、早めに保護者と連携できるようにしました。

自律学級担任者会の開催

中学校区で1～2ヶ月に1度、自律学級担任者会も行っています。

そこで行事の計画をしたり、児童生徒の情報交換などをして指導の参考にしたり、よりよい支援の方向を探ったりしています。小中学校の月別予定表を見ながら自律学級担任者会の計画を入れるのはなかなか大変ですが、支援をつなげていくには意味のある会となっています。

事例から学ぶ

普段から、小学校SRECと中学校SRECが連携し合うことです。できるだけ早い時期から、中学校入学後困難になりそうなことについて支援を行い、中学校への移行をスムーズに行うことが必要です。また、本人や保護者の願いを十分汲み取って支援を考えていくことが大切です。



「個別の教育支援計画」に基づいた一人一人のネットワークづくり(自律学校)

～「みんなで支援」を進めるためのツールの活用～

「個別の教育支援計画」は、「障害のある子どもたち一人一人のニーズに応じて、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を、教育、福祉、医療、労働などが連携して行うための計画」です。

ここでは、自律学校で行われている「個別の教育支援計画」作成の取り組みの例を、ステージごとに紹介します。

●自律学校の各ステージでの取り組みの例

乳幼児期	<p>自律学校入学が決まった1月、ハルオさんの就学に向けた準備と幼稚園から学校生活への円滑な移行を支援するため、「個別の教育支援計画（移行支援計画）」を立てる話し合いを行いました。</p> <p>この計画にそって移行支援を行ったことにより、ハルオさんも保護者も安心して入学後の学校生活をスタートさせることができました。</p>	<p>主な参加者</p> <p>保護者・幼稚園担当者・療育コーディネーター・自律学校就学担当者・保健師・SREC</p>
小学部	<p>小学部3年のナツコさんの保護者は、学校から配布された支援会議のアンケート用紙を見て、関係機関の方に集まってもらい、子どものことをみんなで話し合うことを希望しました。また、将来のことを考え、福祉のことなどの情報も知りたいと考えていました。</p>	<p>保護者・担任・支援センター担当者・市町村福祉課担当者・地域の学習教室担当者・SREC</p>
中学部	<p>中学部1年アキオさんの保護者は、校内で行われた性教育の講演会に出席しました。アキオさんがこの頃すっかり大人の体になり、性の問題についてどうしたらいいか悩んでいたのです。担任は教育相談に保護者を誘い、みんなで一緒に考えてみてはどうかと考え、支援会議を兼ねて行うことにしました。</p>	<p>保護者・担任・療育相談担当者・養護教諭・SREC</p>
高等部	<p>いよいよ卒業が近くなる高等部3年生は、学校の進路指導主事が中心になり、全員の生徒についてケア会議を行っています。卒業後の生活、就労について具体的な姿をイメージしながら、本人も参加して話し合いをしています。</p>	<p>本人・保護者・担任・進路指導主事・市町村福祉課担当者・支援センター担当者</p>

スムーズな移行のために

「個別の教育支援計画（移行支援計画）」は、次のステージへの円滑な移行を見通すものです。本人や保護者の意向を踏まえ、在園、在学中及び卒園、卒業後の支援が適切に行われるように、子ども一人一人について作成するものです。

円滑な移行という点では、幼稚園・保育園から小学校へ、小学校から中学校へ、また転校するとき、クラス替えのときも、同様なことが大切になってきます。これまでの支援が適切に移行できるように、十分な話し合いを行い、縦の連携を進める必要があります。

●初めてのネットワークづくりに向けて

対象児童生徒		○学部	年	ナツコさん
会議を開催するまで	担任	*保護者への、あるいは保護者からの会議の依頼に応じて、話し合う内容を決め、出席機関を選択する。SRECに開催日の希望と出席機関を相談する。 *SRECからの決定内容を受け、保護者に確認し、資料などの配布について確認する。		
	保護者	*会議開催の意向を受け、話し合いたいこと、希望日と出席してほしい機関などを担任に知らせる。		
	SREC	*担任からの報告を受け、希望日と出席機関、会議場所を調整する。 *会議内容によっては事前に関係機関に知らせ、資料などの用意を依頼する。校長名で開催通知を関係機関に配布する。事前にできている「個別の教育支援計画」に目を通しておく。場合によっては児童生徒の様子を知るため、参観などをしておく。		
日 時	○月 ○日 (○) 午前 ○時～○時			
場 所	学校 教育相談室 (*他の機関の場所をお借りすることもある)			
出席者	本人	保護者	担任	SREC
	障害者総合支援センター職員 サービス提供機関職員		市町村社会福祉課職員 地域の学習教室担当者	
資料として用意したもの	個別の教育支援計画		療育相談記録	
会議の内容 進行:SREC	① 自己紹介 ② 支援会議の趣旨について説明 配布資料の確認 ③ 担任より…支援計画説明 保護者…補足・意見 ④ 各機関より…これまでの本児とのかかわりの説明 ⑤ 保護者より…悩んでいること、将来の願い(長期・短期)、情報として知りたいことなどの意見・確認 ⑥ 各機関より…意見、実際に支援できることの確認 ⑦ 目標の設定 具体的支援について協議 ⑧ 次回の開催予定について確認			
実際に話し合われたこと、今後の方向 *具体的にできること、行っていきたいこと・みんなで確認したこと ①教育 保護者と協力し、コミュニケーション手段を具体的に決め出す。他機関と共有する。 ②家庭 排泄に関わる課題 担任との連携・協力 ③医療 定期通院(継続) ④福祉 ヘルパー利用(余暇活動) 担任との連携・協力 保護者への福祉に関わる情報提供 ⑤その他 療育相談(継続) 地域の学習教室の利用(継続・担任との協力)				

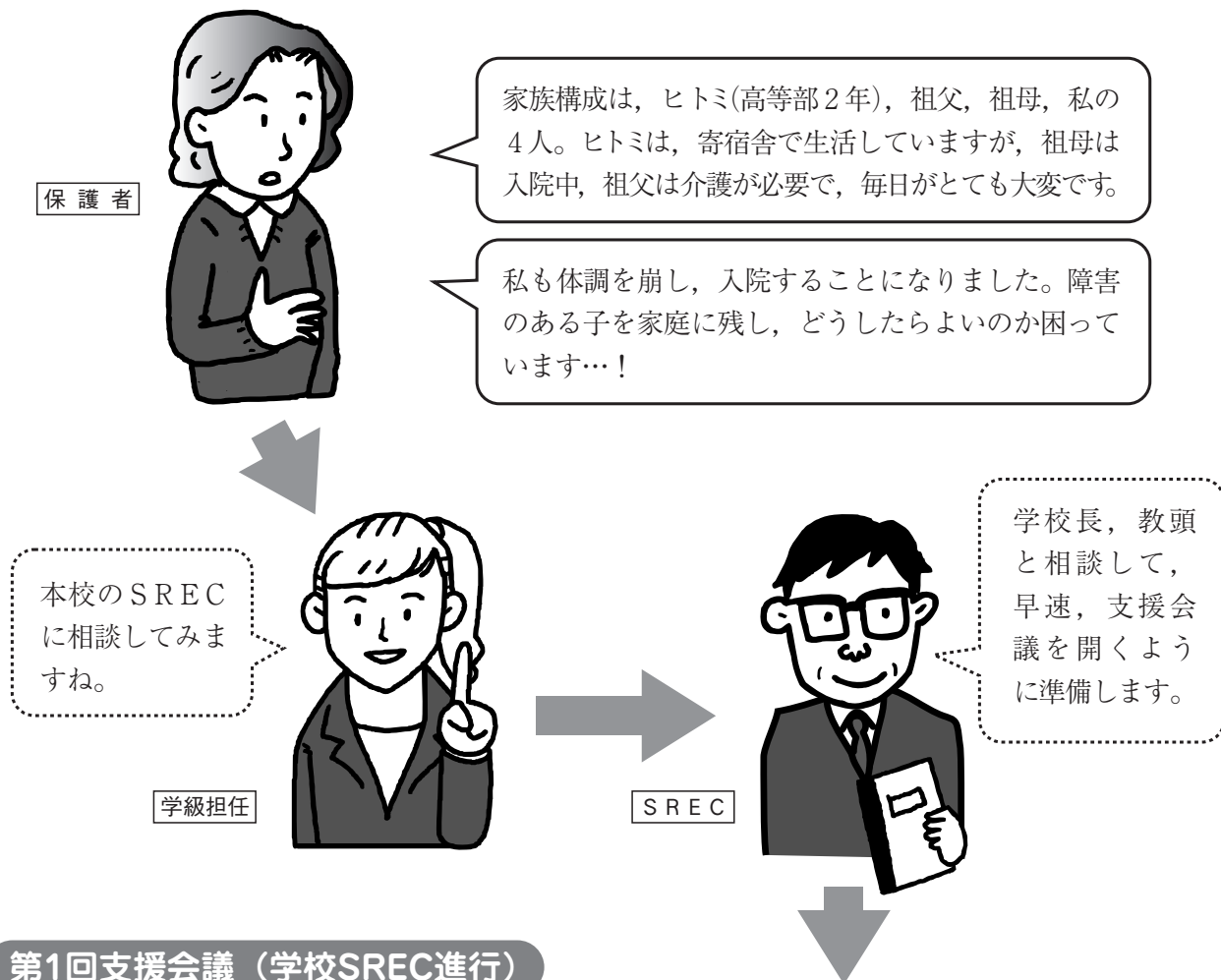


保護者

今日は、長い時間ありがとうございました。何だか今日はたくさん支えてくれる方がいるんだなあということを再認識しました。もっと小さかった頃の、どうしていいのか分からなかった苦しい頃に比べたら、今はとても気持ちになりました。
これからもどうぞよろしくお願いします。

●ネットワークの活用

支援会議を開くまで



第1回支援会議 (学校SREC進行)



本ケースは急を要したので、圏域の療育コーディネーターと連携をとって、分担しながら、即、支援会議が開けるように準備をしました。

支援会議の結果、施設の体制が整い次第入所することになり、主として学校や叔母さんがヒトミさんへのケアを、福祉課や地域の関係機関が家庭へのケアを行うように分担し、次のように実施しました。

- 児童相談所は、ヒトミさんが入所できる施設を早急に探し、手続きを進める。
- 入所するまでの間、週末は「圏域の療育支援センター」で過ごすことにする。
- 環境の変化に弱いヒトミさんに対して、平日は学校と寄宿舎で精神的な面も含めて支援していく。
- 家庭に対しては、市厚生課のケースワーカー、社会福祉協議会のケアマネージャーなどがサポートしていく。



第2回支援会議（児童相談所進行）

入所当時は、落ち着いて生活していたヒトミさんですが、入所3ヶ月後ぐらいから、施設での生活が不安定になってきました。そこで、児童相談所が施設からの依頼を受け、再度支援会議を開くことにしました。今度は、児童相談所担当者が進行を行い、体調も回復してきた母親も外出許可を得て参加し、下記のような方向で支援していくことが確認されました。



福祉課
担当者

- 月に一回をめぐりに帰省する。そのために、次のような支援を行う。
- 予め、学級担任や施設職員が、本人に帰省のことをしっかり伝えておき、見通しがもてるようにする。
 - 施設からの送迎は、市でも援助する方向で検討する。
 - ヒトミさんが楽しみにしている「療育支援センターでの集まりの会」に参加できるようにセンターでも配慮する。



支援
センター
担当者

各担当者が分担されたことを実行し、現在では施設での生活も安定してきて、落ち着いて生活しています。ヒトミさんの表情もよくなり、月に一度の帰省を楽しみにがんばっている姿が伺えます。

今後は、卒業後のことも含めて、実習などを繰り返しながら各機関との連携を更に深めていきたいと思えます。

事例から学ぶ

子どもを中心に支援のネットワークをつくってあると、基本的な情報が共有化されているので、支援会議が必要なとき、関係機関それぞれがその必要性を理解して、集まりやすくなります。日頃から、Face to Faceのお付き合いが大切です。

子どもの特性や成長とともに支援に加わる関係機関も変わってきます。少し先のステージでの子どもの様子をイメージし、その上で今を考えていくようにしましょう。また、支援会議は必要に応じて継続して行い、常に情報を共有できるようにすることが大切です。そのためにも、今後は「個別の教育支援計画」を活用していくことも必要です。まずはSRECに相談してみましょう。



ずっと応援しているよ(中学校)

～中学校卒業生への支援～

学校で子どもと過ごすことのできる日々は決して長くありません。子どもの卒業や教師の転退職などで、子どもとの別れは誰も経験することです。

学校で精一杯の支援をし、進路にもある程度の見通しをもって送り出すのですが、子どもによっては、新たな環境にすぐに適応できない場合もあります。中には、保護者や子どもから相談をもちかけられることもあります。

学校でのお付き合いが終わっても、子どもや家族の生活はまだまだ続いています。「その子をめぐりサポーター」の一人として、見守っていきたいものです。

その場合の注意する点などをまとめてみました。



中学校では自律学級に在籍していたマリさんは、卒業後、養護学校高等部に入学しました。対人関係を築くのが苦手なマリさんですが、進学後は元気よく通学していました。

マリさんのお母さんは、マリさんの兄弟の参観日のときなど、中学校での担任だったミヤモト先生のところに近況を話しに来てくれました。

ある日、マリさんのお母さんから気になることを聞きました。

今、学校に行けなくなってしまったのです。理由はよく分からないんですけど…。

家にいるだけではダメだと思って、地域の作業所や障害者生活支援センターにも通ってみたんですけど、しばらく行くと、マリがいやがって行かなくなってしまうことの繰り返しです。八方ふさがりで、どうしたらいいか…。

マリも、「これじゃいけない」と思っているのか、とてもいらだって、かんしゃくを起こすことが多くて、家の中は大変です……。



ミヤモト先生は、お母さんの話を聞いて、家庭とマリさんの悩みの深さを感じ取りました。

「行かなければならないけど、行けない」という思いが強いマリさんにとって、学校の先生や支援センターの方などの支援は、今はなかなか受け入れることができないようです。

ミヤモト先生は、今はマリさんを指導する立場でないので、以前より気軽にマリさんに接することができるのではないかと考えました。

家に閉じこもりがちなマリさんと、マリさんといつも一緒のお母さんの「息抜き」ができればいいなあ……というような気持ちで、久しぶりにマリさんに会いに行くことにしました。



お母さんの話の聞き役になりたいな。
マリさんが気分転換できるといいなあ。
一緒に外出できるといいなあ。誘ってみよう。



久しぶりにマリさんの家を訪ねたミヤモト先生は、改めてお母さんの話を聞きました。

結論や方針を出せるわけではないので、ただ聞いて気持ちを受けとめたいと思いました。

お母さんから、施設や病院などについての質問をされたので、資料を手渡しました。

ミヤモト先生は、マリさんとドライブに出かけました。いつもはあまり外出しないマリさんですが、楽しそうな表情で、いろいろなことを話してくれました。



マリさんの支援者や学校の先生の考えも知りたいなあ。病院や施設について、情報を提供したけど、そんなことしてよかったのかなあ…。

ミヤモト先生は、養護学校の担任と連絡を取って、マリさんと会ったときの様子などを伝え、更にこのような外出を今後も続けていきたいことや、保護者の気持ちなどを伝えました。

その後、マリさんとは、1月に1～2回のペースで会うようにしました。マリさんから、電話や手紙も届くようになりました。

支援センターでは関係者と、マリさんの今後を話し合う会を開こうと計画しています。

ミヤモト先生は、会に情報を提供しつつ、マリさんや保護者の話し相手の一人として、今後もずっと応援していきたいと考えています。

卒業生のためにできること ～ずっと応援しているよ～

- 指導し評価する立場を離れた一人の「その人をめぐるサポーター」として、一緒に考えていきたいと思っています。
- 在籍校や支援の担当者と連絡を取り合うようにしたいと思いますが、現在行われている支援の妨げにならないように注意したいと思っています。
- 必要に応じて、本人や保護者の気持ちを代弁して、在籍校や支援者に伝えたいと思います。
- 本人や保護者の「気分転換」の機会のお手伝いをしたいと思います。以前の経験から、本人の好きなことを掘り起こして、現在の生活に彩りを添える気持ちで接したいと思います。
- 「無理強いはしない。自分も無理はしない」をポイントにしていこうと思います。

事例から学ぶ

特別な教育的支援の必要な生徒にとって、中学校卒業後の選択肢は多くはありません。卒業までの限られた時間の中で次の道を決定しなければならず、とかく教師は行き先が決まった時点で安心してしまいがちです。しかし、その子と家庭は、その後の環境の変化に大きな不安を感じている場合もあります。

中でも、対人関係を築くのが苦手な生徒にとって、卒業後の環境の変化は大きな試練です。進路先でつまずき、進路変更を余儀なくされる可能性はかなり高いと言わざるを得ません。しかも、つまずいたときにこそ厚くなってほしい支援の手が、むしろ薄くなりがちなのです。

できることは限られているのかもしれませんが、「その人をめぐるサポーター」として、次の支援につながるように、応援していきたいものです。